

障全協新聞

障都連

昭和51年6月1日第3種郵便認可

障害者・患者九条の会

開かれる

「障害者・患者九条の会」が、九月九日、駿河台の明治大学リバイタワ―で開かれました。「障害者・患者九条の会」は、昨年九月に結成され、一周年を記念するもの。呼びかけ人を代表して百歳を越えられた精神科医の秋元波留夫さんが「九条は障害者・患者にとつて命と権利を守るかけがえのないものです。戦争と障害者の幸せは絶対に両立しません。障害者は、平和でなければ生きていけないのです」と力強く訴えられました。

同じ日に「視覚障害者九条の会」を結成する視覚障害者の田中章治さんから連帯の挨拶があり、「本日三時から結成集会を開く、幅広い視覚障害者が呼びかけ人になった。九条を守るためにもがんばろう」とかたりました。

シンポジウムに入り、ジャーナリストの斎藤貴貴さんは、日

本はアメリカ以上に格差社会になつてきている。格差社会は、戦争を生み出す下地になつてい。例えば、アメリカは徴兵制ではない。格差社会がひどいアメリカでは、軍隊は有力な就労先になつてい。日本でも、考えられないことはない。アメリカの支配者たちの「平和」とは、私たちの平和とは違う。テロを殺すことが「平和」なのだ。アフガンやイラクの現状は「平和」と考えている。

人権回復を求める石川島播磨原告団団長の渡辺鋼さんは、自衛隊はアメリカが展開する戦争に不可欠な存在で、日本は既に長期に戦争に参加しているのを見るべきだ。そして、石川島播磨の職員は、「戦争出張」をさせられる。労災などない。石川島播磨では、戦争に必要な人は

連れて行き、戦争にじやまな人は隔離する。私などは、何十年も職場で口を聞いて貰えなかった。九条も、人間の権利もない職場が既に日本に存在している。障害者のみなさんの前で話したのは初めてだが、今日はよかつた。とかたりました。

呼びかけ人の吉川勇一さんは、読売新聞に九条を守る意見広告を出した。身内で喜んでいのでなく、改憲論の人の中にどんな入り込まなくてはだめだ。と発言がありました。

大阪で、山梨八ヶ岳で、横須賀で、障害者が九条の会で活動していることがほうこくされました。

行動提起がされ、①賛同人を増やそう、②各地に障害者九条の会をつくろう、③ホームページなどに情報を、などがてかきされました。

